

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2025年11月11日
【中間会計期間】	第68期中(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
【会社名】	株式会社昭和真空
【英訳名】	SHOWA SHINKU CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役執行役員社長 田中 彰一
【本店の所在の場所】	神奈川県相模原市中央区田名3062番地10
【電話番号】	042(764)0321(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 杉山 茂紀
【最寄りの連絡場所】	神奈川県相模原市中央区田名3062番地10
【電話番号】	042(764)0385
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員 杉山 茂紀
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第67期 中間連結会計期間	第68期 中間連結会計期間	第67期
会計期間	自 2024年 4月1日 至 2024年 9月30日	自 2025年 4月1日 至 2025年 9月30日	自 2024年 4月1日 至 2025年 3月31日
売上高 (千円)	2,590,339	3,695,266	8,480,131
経常利益又は経常損失() (千円)	16,389	151,274	837,536
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益 又は親会社株主に帰属する 中間純損失() (千円)	40,161	91,882	561,931
中間包括利益又は包括利益 (千円)	94,526	2,290	624,090
純資産額 (千円)	11,058,323	11,166,475	11,590,245
総資産額 (千円)	14,724,303	14,688,996	15,451,399
1株当たり中間(当期)純利益 又は1株当たり中間純損失() (円)	6.52	14.89	91.17
潜在株式調整後1株当たり 中間(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	75.1	76.0	75.0
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,342,108	2,273,829	178,764
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	54,430	312,548	332,012
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	437,715	438,816	444,384
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (千円)	6,283,286	6,255,115	4,813,428

- (注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 1株当たり中間(当期)純利益又は1株当たり中間純損失()の算定上、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

2 【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結会社）が判断したものであります。

(1) 財政状態の状況

（資産）

当中間連結会計期間末における流動資産は109億92百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億32百万円減少しました。これは主に現金及び預金が16億46百万円増加したものの、売掛金が22億2百万円、電子記録債権が1億61百万円減少したことによるものです。固定資産は36億96百万円となり、前連結会計年度末に比べ29百万円減少しました。これは主に機械装置及び運搬具が77百万円増加したものの、繰延税金資産が60百万円、建設仮勘定が42百万円減少したことによるものです。

この結果、総資産は146億88百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億62百万円減少しました。

（負債）

当中間連結会計期間末における流動負債は30億99百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億89百万円増加しました。これは主に未払法人税等が2億78百万円、電子記録債務が1億22百万円減少したものの、1年内償還予定の社債が4億50百万円、支払手形及び買掛金が2億29百万円増加したことによるものです。固定負債は4億22百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億27百万円減少しました。これは主に社債が4億50百万円、長期借入金が1億円減少したことによるものです。

この結果、負債合計は35億22百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億38百万円減少しました。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産合計は111億66百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億23百万円減少しました。これは主に利益剰余金が3億44百万円減少したことによるものです。

この結果、自己資本比率は76.0%（前連結会計年度末は75.0%）となりました。

(2) 経営成績の状況

当中間連結会計期間（2025年4月1日～2025年9月30日）における世界経済は、地政学的リスクの長期化や米国による通商政策やその後の政策の不確実性の高まりなどを受けて、持ち直しの動きが緩やかになりました。

わが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策による下支えなどを背景に緩やかな回復基調となりましたが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクの高まりに加え、物価上昇の継続による消費者マインドへの影響がわが国の景気を下押しするリスクとなっており、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社グループを取り巻く経営環境を見ると、主要取引先である電子部品メーカーにおける在庫調整は概ね一巡しました。しかし、業界ごとの需要回復にはばらつきがあり、生産活動の回復ペースは依然として緩やかに推移しました。

こうした環境の中、当社グループは、国内外デバイスメーカーの生産状況や次世代製品開発動向の把握に努め、適時に適切な製品提案をするとともに、顧客からのサンプル作製依頼や顧客との共同開発に積極的に取り組むことで、電子部品業界を中心とした新規先からの受注を獲得しました。

生産面では、受注残及び受注予定案件を見据えた生産体制を整えるなど効率的な生産に努め、顧客への納品に注力しました。

この結果、当中間連結会計期間の業績は、受注高は31億92百万円（前年同期比30.5%減）、売上高は36億95百万円（同42.7%増）となりました。損益につきましては、経常利益1億51百万円（前年同期は16百万円の損失）、親会社株主に帰属する中間純利益91百万円（前年同期は40百万円の損失）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

真空技術応用装置事業

真空技術応用装置事業の受注高は23億3百万円（前年同期比33.4%減）、売上高は26億72百万円（同104.4%増）、セグメント利益は4億19百万円（同944.5%増）となりました。

業界別の状況は以下のとおりです。

（水晶デバイス装置）

水晶デバイス業界では、世界のスマートフォン出荷台数が回復基調にあることや自動車向け水晶デバイス市場が成長していることなどを受け、デバイスメーカーの設備稼働率は回復傾向となりましたが、市場全体での活発な増産設備投資には至りませんでした。

水晶デバイス装置の受注高は6億38百万円（前年同期比78.5%増）、売上高は10億58百万円（同69.5%増）となりました。

（光学装置）

光学業界では、世界のスマートフォンの出荷台数は回復基調にあるものの、デバイスメーカーの増産設備投資は市場全体では低調に推移しました。

光学装置の受注高は2億9百万円（前年同期比89.2%減）、売上高は13億31百万円（前年同期は47百万円）となりました。

（電子部品装置・その他装置）

電子部品業界においては、新規先を含め様々な用途に向けた営業を行うとともに、顧客との共同開発や顧客からのサンプル作製依頼に積極的に取り組むことを通じて引合い案件の増加に努め、新規先からの受注を獲得しました。

電子部品装置・その他装置の受注高は14億55百万円（前年同期比24.9%増）、売上高は2億82百万円（同55.6%減）となりました。

サービス事業

サービス事業につきましては、ユーザーに対する定期的な稼働状況確認による潜在ニーズの掘り起こしや顧客への生産性向上提案による装置の改造工事、保守・メンテナンス受託や消耗品販売に努めました。

サービス事業の受注高は8億88百万円（前年同期比21.3%減）、売上高は10億22百万円（同20.3%減）、セグメント利益は2億19百万円（同42.9%減）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して14億41百万円増加し、62億55百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フロー営業活動による資金獲得は22億73百万円（前年同期比69.4%増）となりました。これは主に、棚卸資産の増加 1 億37百万円などの支出はあったものの、売上債権の減少23億35百万円、仕入債務の増加 1 億15百万円などの獲得があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金支出は 3 億12百万円（前年同期比474.2%増）となりました。これは主に、定期預金等の預入による支出 2 億 1 百万円、有形固定資産の取得 1 億13百万円などの支出があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金支出は 4 億38百万円（前年同期比0.3%増）となりました。これは主に、配当金の支払額 4 億35百万円などの支出があったことによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当中間連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当中間連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、 2 億16百万円であります。

なお、当中間連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【重要な契約等】

当中間連結会計期間において、重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,800,000
計	13,800,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2025年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2025年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,499,000	6,499,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	6,499,000	6,499,000	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2025年4月1日～ 2025年9月30日	-	6,499,000	-	2,177,105	-	2,553,975

(5) 【大株主の状況】

2025年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社アルバック	茅ヶ崎市萩園2500番地	1,329	21.32
小俣 邦正	相模原市中央区	584	9.37
有限会社小俣興産	相模原市中央区陽光台三丁目7番11号	341	5.47
株式会社SBI証券	港区六本木一丁目6番1号	188	3.03
小俣 佳子	相模原市中央区	160	2.57
株式会社三菱UFJ銀行	千代田区丸の内一丁目4番5号	145	2.33
日本生命保険相互会社 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	千代田区丸の内一丁目6番6号 日本生命証券管理部内 (港区赤坂一丁目8番1号 赤坂インターシティAIR)	115	1.85
株式会社みずほ銀行 (常任代理人 株式会社日本カストディ銀行)	千代田区大手町一丁目5番5号 (中央区晴海一丁目8番12号)	96	1.54
昭和真空従業員持株会	相模原市中央区田名3062番地10	83	1.33
小俣 みつこ	相模原市緑区	80	1.28
計	-	3,123	50.08

(注) 上記のほか、自己株式が262千株あります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 262,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,225,000	62,250	-
単元未満株式	普通株式 11,400	-	-
発行済株式総数	6,499,000	-	-
総株主の議決権	-	62,250	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、「株式給付信託(J-ESOP)」制度の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式が60,600株含まれております。なお、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有している当社株式は、連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式49株が含まれています。

【自己株式等】

2025年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社昭和真空	神奈川県相模原市中央区 田名3062-10	262,600	-	262,600	4.04

(注) 1. 「株式給付信託(J-ESOP)」制度の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式60,600株を、連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2. 自己株式は、2025年8月8日に実施した譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分により、8,000株減少しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間(2025年4月1日から2025年9月30日まで)に係る中間連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による期中レビューを受けております。

1 【中間連結財務諸表】

(1) 【中間連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,978,440	6,625,250
受取手形	9,813	3,730
電子記録債権	475,143	313,475
売掛金	3,464,223	1,261,244
商品及び製品	745	745
仕掛品	2,143,234	2,366,767
原材料及び貯蔵品	364,266	275,660
その他	290,856	147,158
貸倒引当金	1,422	1,325
流動資産合計	11,725,302	10,992,707
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	898,152	860,572
機械装置及び運搬具（純額）	139,412	216,438
土地	1,970,562	1,970,562
建設仮勘定	52,741	10,365
その他（純額）	88,687	96,726
有形固定資産合計	3,149,555	3,154,665
無形固定資産		
リース資産	1,723	1,077
その他	68,268	62,035
無形固定資産合計	69,991	63,112
投資その他の資産		
投資有価証券	173,248	212,769
繰延税金資産	241,440	181,433
退職給付に係る資産	69,899	65,301
その他	22,944	19,988
貸倒引当金	981	981
投資その他の資産合計	506,550	478,510
固定資産合計	3,726,096	3,696,288
資産合計	15,451,399	14,688,996

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	565,494	795,304
電子記録債務	703,547	581,503
1年内償還予定の社債	-	450,000
1年内返済予定の長期借入金	-	100,000
リース債務	7,246	7,993
未払費用	210,636	141,892
未払法人税等	303,101	24,437
前受金	675,519	695,909
賞与引当金	243,501	150,047
役員賞与引当金	56,000	28,500
製品保証引当金	69,000	75,000
工事損失引当金	32,700	7,700
その他	44,113	41,581
流動負債合計	2,910,860	3,099,869
固定負債		
社債	450,000	-
長期借入金	100,000	-
リース債務	11,333	15,283
退職給付に係る負債	258,317	274,906
株式給付引当金	55,407	53,925
長期未払金	75,235	78,535
固定負債合計	950,293	422,651
負債合計	3,861,154	3,522,520
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,177,105	2,177,105
資本剰余金	2,793,805	2,798,018
利益剰余金	6,351,075	6,006,973
自己株式	309,269	298,978
株主資本合計	11,012,716	10,683,119
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	98,325	124,148
為替換算調整勘定	431,329	317,689
退職給付に係る調整累計額	47,873	41,517
その他の包括利益累計額合計	577,528	483,355
純資産合計	11,590,245	11,166,475
負債純資産合計	15,451,399	14,688,996

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
売上高	2,590,339	3,695,266
売上原価	1,730,878	2,648,924
売上総利益	859,460	1,046,342
販売費及び一般管理費	849,185	917,329
営業利益	10,274	129,012
営業外収益		
受取利息	4,117	3,169
受取配当金	4,242	4,822
受取賃貸料	1,154	1,011
補助金収入	-	9,735
為替差益	-	2,187
その他	2,276	3,439
営業外収益合計	11,791	24,366
営業外費用		
支払利息	857	838
支払保証料	772	769
為替差損	11,884	-
組合投資損失	24,703	-
その他	237	496
営業外費用合計	38,455	2,104
経常利益又は経常損失()	16,389	151,274
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失()	16,389	151,274
法人税、住民税及び事業税	43,218	11,530
法人税等調整額	19,446	47,860
法人税等合計	23,772	59,391
中間純利益又は中間純損失()	40,161	91,882
親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失()	40,161	91,882

【中間連結包括利益計算書】

	(単位：千円)	
	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
中間純利益又は中間純損失()	40,161	91,882
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	45,262	25,823
為替換算調整勘定	181,283	113,640
退職給付に係る調整額	1,331	6,355
その他の包括利益合計	134,688	94,172
中間包括利益	94,526	2,290
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	94,526	2,290

(3) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失()	16,389	151,274
減価償却費	86,888	119,197
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	19,447	12,808
役員賞与引当金の増減額(は減少)	16,000	27,500
賞与引当金の増減額(は減少)	5,597	93,453
製品保証引当金の増減額(は減少)	9,000	6,000
工事損失引当金の増減額(は減少)	9,300	25,000
株式給付引当金の増減額(は減少)	285	2,263
受取利息及び受取配当金	8,359	7,992
支払利息	857	838
売上債権の増減額(は増加)	1,422,573	2,335,381
棚卸資産の増減額(は増加)	840,411	137,605
仕入債務の増減額(は減少)	785,352	115,288
未払費用の増減額(は減少)	28,166	62,951
未収消費税等の増減額(は増加)	71,849	129,001
未払消費税等の増減額(は減少)	126,925	1,783
前受金の増減額(は減少)	49,275	20,485
その他	35,406	7,358
小計	1,297,310	2,547,178
利息及び配当金の受取額	8,361	7,711
利息の支払額	930	840
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	37,366	280,219
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,342,108	2,273,829
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,200	201,216
有形固定資産の取得による支出	29,690	113,547
無形固定資産の取得による支出	23,540	599
その他	-	2,816
投資活動によるキャッシュ・フロー	54,430	312,548
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	432,042	435,384
ファイナンス・リース債務の返済による支出	5,672	3,431
財務活動によるキャッシュ・フロー	437,715	438,816
現金及び現金同等物に係る換算差額	138,762	80,777
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	988,725	1,441,687
現金及び現金同等物の期首残高	5,294,560	4,813,428
現金及び現金同等物の中間期末残高	6,283,286	6,255,115

【注記事項】

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、2020年11月6日開催の取締役会決議に基づき、当社の株価や業績と従業員の処遇の連動性をより高め、経済的な効果を株主の皆様と共有することにより、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めるため、従業員に対して自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託（J-ESOP）」制度（以下、「本制度」という。）を2020年11月24日より導入しております。

(1) 取引の概要

本制度は、予め当社が定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした当社の従業員に対し当社株式を給付する仕組みです。当社は、従業員に対し当社の業績等に応じてポイントを付与し、一定の条件により受給権を取得したときに当該付与ポイントに相当する当社株式等を給付します。従業員に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度末は87,797千円、63,300株、当中間連結会計期間末は84,052千円、60,600株です。

(中間連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
給料及び手当	229,705千円	209,610千円
賞与引当金繰入額	54,537千円	60,169千円
退職給付費用	8,406千円	5,989千円
研究開発費	178,789千円	216,345千円

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
現金及び預金	6,350,059千円	6,625,250千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	52,284千円	354,702千円
J-ESOP信託別段預金	14,487千円	15,431千円
現金及び現金同等物	6,283,286千円	6,255,115千円

(株主資本等関係)

前中間連結会計期間(自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年 6 月26日 定時株主総会	普通株式	435,984	70	2024年 3 月31日	2024年 6 月27日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)」に対する配当金4,641千円が含まれております。

当中間連結会計期間(自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年 6 月24日 定時株主総会	普通株式	435,984	70	2025年 3 月31日	2025年 6 月25日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)」に対する配当金4,431千円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	真空技術応用装置事業	サービス事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	1,307,685	1,282,654	2,590,339
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,249	2,929	5,179
計	1,309,935	1,285,584	2,595,519
セグメント利益	40,191	383,876	424,067

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	424,067
セグメント間取引消去	16,444
全社費用(注)	430,237
中間連結損益計算書の営業利益	10,274

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	真空技術応用装置事業	サービス事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	2,672,368	1,022,897	3,695,266
セグメント間の内部売上高 又は振替高	20,357	14	20,371
計	2,692,725	1,022,912	3,715,637
セグメント利益	419,787	219,003	638,790

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	638,790
セグメント間取引消去	12,633
全社費用(注)	522,411
中間連結損益計算書の営業利益	129,012

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

(単位:千円)

	真空技術応用装置事業	サービス事業	合計
水晶デバイス	624,661	183,173	807,834
光学	47,300	583,423	630,723
電子部品	635,723	449,361	1,085,084
その他	-	66,696	66,696
顧客との契約から生じる収益	1,307,685	1,282,654	2,590,339
外部顧客への売上高	1,307,685	1,282,654	2,590,339

当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

(単位:千円)

	真空技術応用装置事業	サービス事業	合計
水晶デバイス	1,058,587	151,186	1,209,774
光学	1,331,455	283,396	1,614,852
電子部品	282,325	531,789	814,114
その他	-	56,525	56,525
顧客との契約から生じる収益	2,672,368	1,022,897	3,695,266
外部顧客への売上高	2,672,368	1,022,897	3,695,266

(1 株当たり情報)

1 株当たり中間純利益又は 1 株当たり中間純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
1 株当たり中間純利益又は 1 株当たり中間純損失()	6 円52銭	14円89銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失()(千円)	40,161	91,882
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益 又は親会社株主に帰属する中間純損失()(千円)	40,161	91,882
普通株式の期中平均株式数(株)	6,162,784	6,168,984

- (注) 1 . 前中間連結会計期間の潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益については、1 株当たり中間純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当中間連結会計期間の潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 . 1 株当たり中間純利益又は 1 株当たり中間純損失の算定上、信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託 E 口)が保有する当社株式を、普通株式の期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前中間連結会計期間は65,567株、当中間連結会計期間は62,033株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年11月11日

株式会社昭和真空
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人 東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川 口 宗 夫

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松 尾 絹 代

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社昭和真空の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社昭和真空及び連結子会社の2025年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは期中レビューの対象には含まれていません。
